

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成30年度採択）

中間評価（案）（公表用／ハード分野）

番号	研究名	研究代表者	評 価
30-6	地方自治体における道路維持管理業務のための道路構造物に関する情報の利活用方策	筑波大学 教授 堤 盛人	C
<p><研究の概要></p> <p>実際の現場での道路維持管理業務そのものの実施体制等や道路構造物に関わる様々なデータ管理の実態を明らかにし、課題を抽出する。その上で、多額の費用を掛けることなく、通常の業務の延長上での道路維持管理業務に関連する各種資料・データを集約し、それらと道路構造物の点検・診断結果等を地理情報システムを用いたデータベースとして構築する方法を具体的に提示する。そして、自治体での実際の導入とその利活用を実証的に検証する。併せて、研究成果活用の継続性の観点から、提示する方策を担う人材育成に関しても実証的に検討する。</p> <p><中間評価結果></p> <p>これまでの研究成果が地方自治体におけるインフラ管理の実態把握に留まっており、今後の研究の方向性が不明確であることから、研究計画の再検討が必要である。</p> <p><修正内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地方自治体における道路管理について、業務プロセスや人員、組織体制など様々な課題がある中、なぜシステム化できないかを分析するなどし、道路構造物に関する情報利活用の課題を整理するなど、道路管理者が参考とできるような成果が得られるよう研究計画を再構成していただきたい。 2. 個別の事例への対応に留まるのではなく、多様な地方自治体で活用できるよう、一般化可能な成果となるよう留意していただきたい。 			

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第36回新道路技術会議において審議したものである。